

<子ども教育学科> (認定課程: 小学校教諭一種)

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	子どもをめぐる様々な視点や現代的課題を知り、子どもの姿を考える。また、子どもの教育と発達について基礎的な知識を獲得する。子どもにとっての人的環境である大人や教師の役割を理解し、教員に求められる基礎的な教養やアカデミックスキルを獲得する。併せて、自己の適性に沿うコース選択への見通しを持つ。
	後期	子どもの心理・発達に関する知識や教育の基盤となる知識を獲得し、「教育とは何か、学びとは何か」という問いへの理解を深める。また、引き続き教員に求められる基礎的な教養やコミュニケーション力などを獲得する。「スクールボランティア」等の体験を経て、小学校教員への目的意識や適性を自己確認し、「学校教育コース」への所属意志を固める。
2年次	前期	小学校教諭に求められる教育の方法や、教科内容に関する基礎的知識を修得する。小学校での見学実習を行い、教育現場における子どもの生活や教諭の仕事についてその概要を理解する。
	後期	教職課程における専門知識を深める。小学校教諭の役割及び職務内容についての理解を深め、カリキュラムの重要性を知る。また引き続き、教科に関する知識・理解を獲得する。
3年次	前期	教科専門と教職科目をつなぐ「教科教育法」の重要性を理解する。「教科教育法」の学びを通して各教科の目的・内容・方法・評価等を体系的に理解し、授業計画を立て、学習指導案が書けるようになる。また、「専門ゼミナール」において専門分野の関心領域を選択して、深く学ぶ。
	後期	教職実践力につながる知識技能を獲得する。引き続き教科の知識・理解を獲得するとともに、教育経営や教育相談、特別活動の指導法を学ぶ。「専門ゼミナール」において専門分野における自己の研究テーマを設定し、能動的・自律的な学修力・研究力を獲得する。
4年次	前期	教職への具体的な見通しを持ち、教職実践力を獲得する。教育実習(及び「長期フィールド実習」)において小学校での日常生活に馴染み、大学での教職・教科・教科教育法の学びを教育現場の文脈の中でより深く理解する。また、自ら授業運営を体験する中で、未来の小学校教諭としての自己イメージや課題を確認する。最終学年を迎え、教員採用試験への対策と準備を行う。
	後期	4年間の学修を振り返り、教職科目と教科の学びを統合しつつ自己の課題を確認し、教職実践力の向上につなぐ。専門ゼミナールにおいて自律的な研究を行い、卒業研究(卒業論文)あるいは長期フィールド実習研究報告書にまとめ、生涯学び続ける教師としての基本姿勢を獲得する。